

そうび



のアトリエ

木のこゝろ 木のもの  
萬才相談承り呉



1999  
春号  
vol. 3

編集・発行  
株式会社 創美  
川越市元町2-1-1  
Tel.0492-23-0258  
Fax.0492-23-0204

内容 (特集)

◇トピックス

新発売「Woody Puzzle」  
小江戸川越【知的遊具】  
のデザイン開発

◇人 名工その技③

碓氷健吾氏

◇街を歩く 山車

(川越祭りの主役)

◇木と樹の話 その③

檜

人と街にこだわった店創りを進めて30年、「木と樹」に戻り、「木」の商道具、「木」の生活具等、自然を大切にし、ゆたかな「木」と人の暮らしを見つめます。

- ・「木」による商品の紹介・頒布・インテリア・工芸品製作・商いの店設計施工
- ・個展・ギャラリー・開発サポート
- ・人の体にあった呼吸する住まい造り・設計施工
- ・「木」の情報・「木」の知識の提供・イベント・セミナーの開催

新発売 時の鐘「Woody Puzzle」 Design: そうび木のアトリエ1999

小江戸川越【知的遊具】のデザイン開発!!



© Soubi1999

古来より中国には7枚の「タングラム」スイスには6枚の「ヘキサグラム」というパズルがあります。

川越のシンボルと言え「時の鐘」蔵造りの街並を見おろす堂々とした姿を手のひらサイズの「Woody Puzzle」に創作しました。

15のパーツは時の鐘、蔵造り、カニ蝶、など多彩なイメージをふくらませてくれます。グラスをかたむけながら、又友達と時間を競ったり、旅のお共にと、いつでもどこでも誰にでも楽しめる木のパズルです。



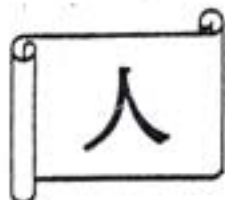
木のやさしさとぬくもりを備えたウディパズルは創造性を高める知的遊具です。



(高橋典子)



PAT.出願済



## 碓氷健吾氏「トップクラスの鉋鍛冶」 伝統工芸士

碓氷さんは、新潟県三島郡与板町の鉋鍛冶です。与板の刃物は、戦国時代にさかのぼり、上杉謙信の四天王の一人が刀剣師を連れて来た時からの始まりです。明治以後、刀工が鉋の製造に着手した事で、与板は全国にその名を馳せました。

碓氷氏は数多くの銘鉋を世に出しておられますが、特筆すべきは、鍛造の腕はもちろん、良い鋼への限らない探求心です。「鍛錬における鋼の球状化温度は炭素量と他の成分によって多少異なります。炭素量が1.4%以下の青紙（特殊鋼）白紙（炭素鋼）の場合は、880℃～900℃位のAcm線直下で網状が切れ始め、840℃～850℃位の第二回目の鍛錬で完全に球状化しますが、まだ粒子は少し大きく、折出量も少ないのです。750℃位の第三回目の鍛錬。更に650℃位の低温鍛錬、いわゆる墨打ち鍛錬すると、粒子は非常に細かく、また炭素の折出量も多くなって組織が均一になります。」と50余年の研鑽から生まれたノウハウを極め、温度管理と、鍛錬の“間”の取り方など、卓越した技術を持ちながら同時に顕微鏡を覗く研究熱心な方です。「鉋の切れあじと研ぎやすさとは比例しない」という相反する課題にもチャレンジされています。

代表作「健明」は長切れの評判が高く、削りテストで1000尺引いても実用の仕上げに耐えうる程です。命名の由来は、健吾氏が鍛え奥様の明恵さんが焼入れや焼戻しの熱処理をする。夫婦合作のカンナだからです。刃鋼は日立金属の青紙スーパーY-1。砥石あたりが良く、癖の無い素直な削り味を持つこの秀逸な鉋はさきの伊勢神宮の式年遷宮に使用されました。その時の鉋屑を見せていただいた時には、あまりの薄さに驚きました。

仕事場は、気迫に満ち、訪問者にも惜しみなく解説され、対応して頂ました。

現在、入手（注文製作）出来る最高峰の鉋です。

（小峰春彦）



そうびの アトリエは '99 クラブフェアまつもと に参加します

木

5/29 土～5/30 日

松本市あがたの森公園で

AM10:00～PM5:00

おあいしましょう



街

山車 (川越祭りの主役)

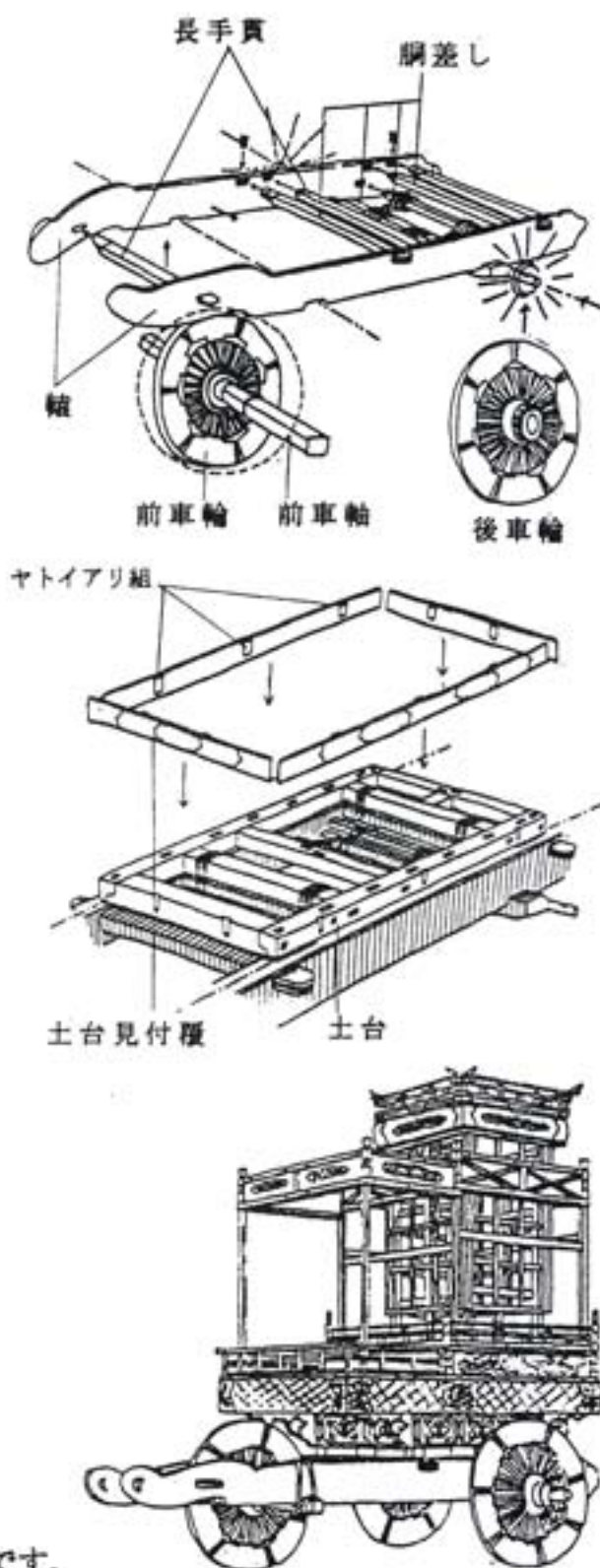
川越祭りは川越の氷川神社の祭礼で歴史は古く、元禄 11 年 (1698) に高沢町 (現在の元町 2 丁目) より踊屋台を出した記録があり、その後天保 15 年 (1844) 奉納された氷川祭礼絵馬には、上 5ヶ町、下 5ヶ町 10 台の山車が画かれております。現在、市立川越博物館で収蔵され見る事ができます。本号と次号に、そうび木のアトリエの在る元町 2 丁目町内会に受け継がれている「山王の山車」の構造を御紹介します。

現在の山車の創建は明治 4 年と伝えられ東京神田に住む「都梁斎、仲秀英」(人形師) の作で、特徴は精巧な寄せ木造り、2 重鉦、大きな 3 っ車、(御所車) 欄間仕立ての囃子台を持つ造りで古雅で気品のあふれる美しい姿は「男山車」とも呼ばれ、埼玉県指定有形文化財である。構造は 65 品目 211 点の檜、樺、樫材等、部材を用いた、木造伝統工法で組立式です。車台は轆 (ながえ) と呼ばれる大きな赤檜の板を左右より前につきだし貫 (ぬき) 胴差しと云う部材より組み車軸を縄にて結び縛る「古来の麻搦」の手法を用いている。轆の先には波形の彫刻が施され、もぐさを焚き二年の歳月をかけ焙り曲げたと云われる曲線は見事であり今もその名残の焼け跡が見られます。次に土台を固定し見付けを化粧覆い「ヤトイアリ組み」で飾り、腰板、上土台、附施台 (囃子台) 人形檜と組み上げて行きます。車、車台、上下土台は山車の全重量を支え、なおかつ引き回し時のねじれにも耐えうるよう複雑な仕口で組み上げ、より強度が増すしくみになっています。100 年以上の間、繰り返し組立引き回し解体を行っても、なおゆるぎない木構造を生み出した先人の智恵と見事な技は、リサイクル、リペアーの工夫まで完璧です。

※参考文献:「川越祭り」と山車」 木下雅博氏著 前元町 2 丁目自治会会長

川越市文化財保護協会 昭和 60.8.30 発行

※資料提供:立教大学 松平研究室、松平 誠氏



(町田忠男)



木

樹と木の話 —— 檜

今回は檜です。北は福島から南は屋久島までと広きに渡り生育しており、原始時代には火きり（木と木の摩擦による発火法）として用いられました。「ヒノキ=火の木」の呼称と言われています。檜独特の芳香、ピンクがかった白木の美しさ、肌目の艶と緻密さ、粘りのある強さ、害虫や水に対する耐久性などの利点はすでに古代から見いだし、伊勢神宮を代表とする神殿や多くの仏閣の主要材として使われてきました。

柱穴くぐりで有名な東大寺大仏殿の、あの太い柱も檜です。又 世界最古の木造建築である法隆寺は、主要な構造材すべてに樹齢 1000 年以上の檜が使われ、今尚力強くお堂や塔を支えています。

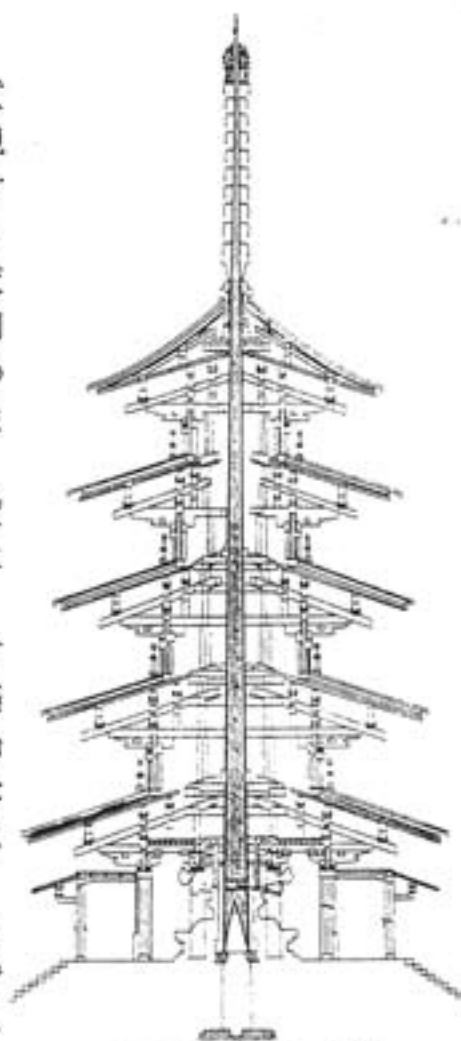
檜は伐り倒されてから曲げに対する強さや硬度がじわじ

わと増して、その後非常にゆっくりと低下してゆく性質がある為、1300 年経った現在でも法隆寺の古い柱は新材とほぼ同じぐらいの強さだということです。又 風化して灰色になった柱の表面を鉋で削ると驚くことにまだヒノキの香りが漂うといわれています。

江戸時代にはお留山の制度がしかれ（1625）「木一本に首ひとつ」という程厳しく、長い間管理されてきた檜ですが、明治以降は一般にも建築材をはじめ、家具、風呂、船のマスト、漆の木地、生活木器として幅広く使われる様になりました。

多くの美点を持つ檜は、日本が世界に誇れる優秀な材であり、今も昔も日本人に最も愛されている木の一つです。

（松岡百合子）



法隆寺五重塔の心柱

（参考図書：NHK ブックス、法隆寺を支えた木・小原二郎、西岡常一共著）

やまびこ

「また来たよ」このごま當り器便利だからいつも頼まれてね…と観光バスの運転士さん川越コースの度によってくれます。店内にお客様がいらっしゃると、説明もして下さって感謝!!

「え これ木のイスなの、絹座布団かと思ったわ」…と店内の大門氏作のイスを見てもうすこし安かったらね・・・と皆さん手触りを楽しまれています。

（町田初枝）

編集子

今回で「通信」の発行も3回目となりました。回を重ねるたびに、少しずつ楽になるかと思っておりましたが、ますます大変になるような気がします。物の本質を観ることがいかに難しい事なのか今更ながら考えさせられ、寒風に我が身を置く思いです。

とはいえ、季節はめぐり、桜の花も咲き誇り、吹く風さえもここちよく……

今まさに・・・春らんまん♪

（野島良子）

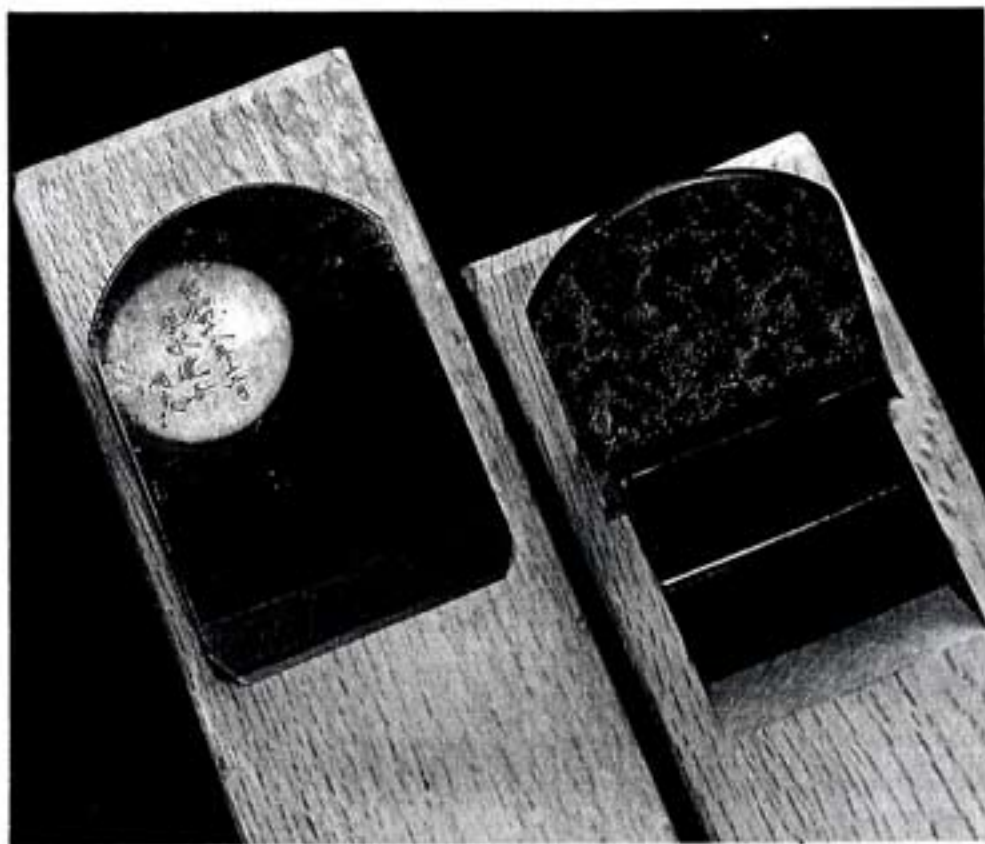
文責 町田忠男



# 資料 1

## 1 夫婦の匏 『建明』

(1)

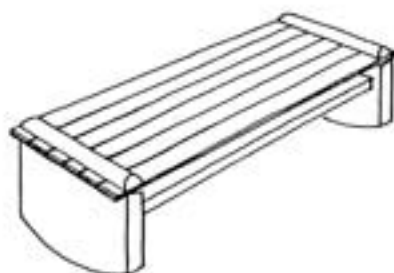


毎日新聞社出版 道具曼陀羅より

### おすすめの一品

#### ≡ あすなろ木の枕 ≡

薄いあすなろの枝が柔らかくしなり、  
ヒノキチオール心地よい香りがあるあなたに  
安らぎを・・・ちょっと横になるとき又  
夜お休みになるときにご愛用ください。  
「明日はヒノキになろうと言うヒバ  
(アスナロ) の声が聞こえるかも」



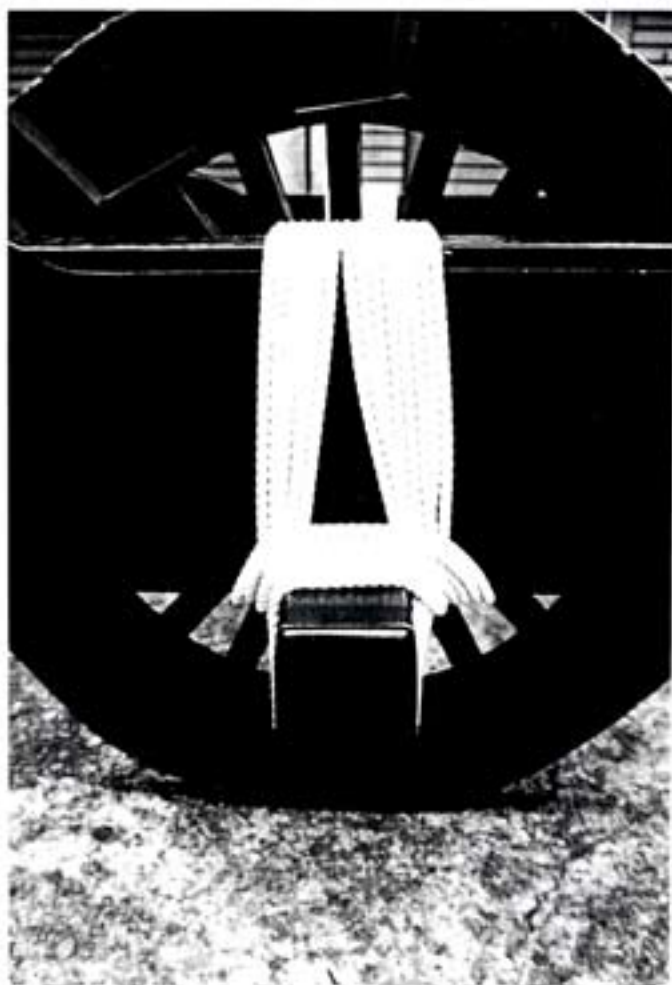
夏休み親子  
木工教室  
企画 中

## 資料 2

- 1 古来のおがらみ しきせんりん麻搦式前輪の固定
- 2 左右のなげえ おき轆と貫

■ ディテール (構造)  
小江戸川越  
山王の山車の  
(構造) 車体

(1)



(2)

